

## 新しい家族

一年 鈴木颯斗

ぼくは、今年の六月の半ばから一羽の白文鳥を飼いました。ぼくが文鳥を飼いたいと思うようになったのは小学五年生の頃からです。その理由は、自分で生き物を飼ってみたいと思ったからです。ぼくはそのために文鳥の飼い方の本や動画を飽きるほど見て文鳥についてを知りました。

中学生になって最初の自己紹介で文鳥が好きだといったらクラスメイトのおじいさんが文鳥のブリーダーさんで、そこから文鳥のひなをもらうことになりました。そのときぼくは、「やっとな文鳥を飼うことができる。たくさんかわいがってあげよう。」と思いました。

そして、ついに我が家に文鳥が来ました。ひなでえさやりが大変だと思っていたけれど全然大変ではありませんでした。一生けん命えさを食べている様子はかわいくとてもいやされます。この文鳥の名前は「エール」です。エールはぼくと誕生日が近いです。なのでぼくが一歳としをとるとエールも一歳としをとり、ぼくはエールといっしょに生きていくんだなと感じます。

ぼくはエールを手乗り文鳥と言われる、人の手やかたに乗ってくれる文鳥にしたいと思いました。なのでぼくは、ケージの前にくるたびに「ピピ」と言ってあげたり、放鳥時にはずっとそばにいてあげました。なので今では、呼べば飛んで来てくれたり、放鳥中でもいつもそばにいてくれたりします。トイレに行くだけなのに「どこに行くの」というように何回も何回も鳴いてくれます。その鳴き声はトイレの中に入っても続いているので最初はおどろきました。そしてもどってきてケージの前に行くとき安心したかのように鳴きやみます。エールは「かまってちゃん」なのでぼくが何かをしているとじゃましてきます。

このエールのしぐさの中でもぼくが好きなのは、エールが寝ているところです。エールがリラックサして寝ているところはまるでおもちゃのようです。本当におもちゃのようにとろけているのですごくかわいいです。

ぼくの家では、昔からいろいろな生き物を飼っていたけれどすべて自分でお世話をする動物はエールが初めてでした。不安なこともあったけれどエールがかわいいのおかげでいまではそんなことはありません。ぼくはエールのおかげで動物を愛したら愛されることを知りました。なのでぼくはこれからも、家族の一員であるエールが最後まで楽しく幸せに暮らせるように大切にしていきたいと思っています。